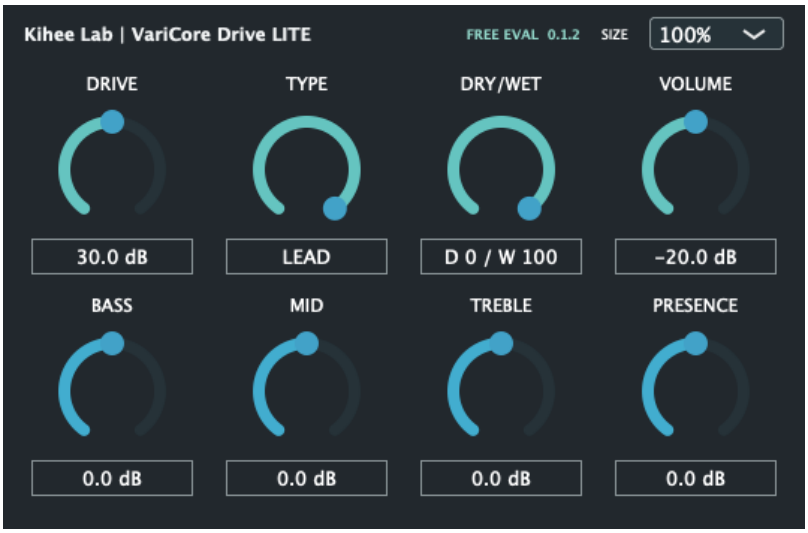
VariCore Drive LITE

かんたん取扱説明書 / 音づくりの基本

ギター用の歪みプラグインです。対応するDAWなどで使います。
まずは普段お使いのアンプシミュレーターの前に挿して試してください。



画面例：100%表示。右上のSIZEで画面の大きさを変えられます。

まずはこの設定から

TYPEで好みの音を選び、DRIVEは12時、DRY/WETは右端（D 0 / W 100）、
音色の4ノブは12時にします。VOLUMEは初期値の-20 dBから調整してください。

TYPE	音の特徴
CRUNCH	軽く、カラッとした歪み。コードや弱いピッキングに。
BOUTIQUE	中程度の歪み。ハイミッドの存在感と、軽い圧縮による粘り。
LEAD	厚い歪み。高域の角を少し抑えた音。初期選択はこちら。

8つのノブ

DRIVE	歪み量。12時が、そのTYPEの基準です。
TYPE	CRUNCH / BOUTIQUE / LEADを選びます。
DRY/WET	右端で歪み音のみ。左へ回すと原音を混ぜます。
VOLUME	原音と歪み音を混ぜた後の、全体の音量です。
BASS / MID	低域 / 中域を調整します。12時が基準です。
TREBLE / PRESENCE	高域 / 高域の輪郭を調整します。12時が基準です。

上下にドラッグして調整し、ノブをダブルクリックすると初期値へ戻ります。
DRY/WETの原音にも音量補正と圧縮がかかります。混ぜたときの音量差はVOLUMEで調整してください。

VariCore Drive LITE

かんたん取扱説明書 / 導入・表示・削除

インストール

① すべてのDAWを終了し、配布ZIPを展開します。
② ご使用のOSに合ったインストーラーを開き、画面の案内に従います。
③ DAWを起動し、Kihee Lab → VariCore Drive LITEを選びます。

Windows	名前が「Setup.exe」で終わるファイルを開きます。VST3版を自動で配置します。
Mac	名前が「Installer.pkg」で終わるファイルを開きます。AU・VST3版を自動で配置します。

管理者の確認やパスワード入力を求められる場合があります。現在は正式署名・Mac公証前の評価版です。警告が出たときは提供元を確認してください。

接続と使い始めの確認

ギター → オーディオインターフェイス → DAWの入力トラック →
VariCore Drive LITE → アンプシミュレーター → 出力、の順に接続します。
トラックの入力モニターを有効にし、DAWへの入力が赤く振り切れないようにしてください。

LITEにアンプ・キャビネット処理は内蔵されていません。音が硬すぎるときは、後段のアンプやキャビネットの設定も確認してください。

画面サイズと設定の保存

SIZE 100%	小さめの表示。536 × 350。
SIZE 150%	中くらいの表示。804 × 525。
SIZE 200%	大きめの表示。1072 × 700。高解像度の画面に。

右上のSIZEから選びます。音の設定と選んだ表示サイズは、DAWのプロジェクトを保存すると記録されます。サイズを変えても音は変わりません。

アンインストール

Windows	同梱のUninstall-VariCoreDriveLite.exeを開きます。Windowsの「インストールされているアプリ」からも削除できます。
Mac	同梱のUninstall VariCore Drive LITE.appを開きます。「アプリケーション / Kihee Lab」内からも開けます。

削除前にすべてのDAWを終了してください。旧LITEのバックアップも削除するか選べます。フル版・DAWのプロジェクト・他のプラグインは残します。

困ったとき・感想

音が出ない：DAWの入力機器・入力チャンネル・入力モニターとVOLUMEを確認。
一覧に出ない：DAWを再起動し、必要ならプラグインを再スキャン。
遅れて聞こえる：オーディオ設定のバッファーを小さくし、音切れしない範囲で調整。

感想は同梱のFeedback-ja.txtへ。OS・DAW・使用したTYPE・良かった点や気になった点を添えてください。感想の連絡先：kihee@kihee.com